

序

◆ 感染症専門医から総合診療医へのバトン

日本の感染症診療とその教育はこの約20年間で飛躍的な変化を遂げたと感じております。

この原動力となっている先生方の多くはもともと総合診療医であり、また現在でも感染症専門医でありながら総合診療医としてもご活躍されております。感染症診療はその横断的性質、疾患の頻度の高さ、疾患プレゼンテーションの他疾患との類似性の高さなどから、総合診療の重要な部分を占めています。一方で、かつて日本にはいわゆる総合感染症を専門に診療する医師が少なく、いわゆる臓器別専門医がそれぞれの臓器に生じた感染症を診療しておりましたが、感染症自体もともと頻度が高いために一般感染症の多くは総合診療医が対応することを余儀なくされていた歴史があります。しかし系統だった総合感染症診療は日本では学べる環境が少なかったため、総合診療医のなかで米国に臨床留学したり、欧米から招聘された医師の教育を受けたりする医師が出はじめ、総合感染症診療はそのような先輩医師たちからその教え子たちへと研修教育病院を中心に少しずつ広がってきました。そしてありがたいことにその日本の感染症診療をリードしてこられた先生方は直接的だけでなく間接的にも日本に感染症診療を広めようと多くの講演、セミナー、勉強会などを開催され、さらに執筆物、著書などを世の中に生み出してこれ私もその恩恵を受けて勉強してまいりました。

感染症専門医の先輩先生方からバトンを受け取ったわれわれ総合診療医は、現在地域の診療所、市中病院、研修病院、大学病院、海外などでそれをもとに感染症診療を行っております。しかし現場ではなかなか教科書通り、教え通りにいかないことも多く、それぞれの総合診療の現場の状況に合わせた修飾や試行錯誤が必要となっております。そして多くはその場にいつも感染症専門医がいてくれるわけではなく、自らの判断を余儀なくされております。つまりそこには総合診療医がみる感染症という entity が存在し、感染症診療を身につけた総合診療医が悩み抜いた「落とし所」となっているはずです。そこで今回の特集は敢えて執筆者を「感染症専門医はもっていない」ないし「感染症科という看板の下で勤務していない」先生方、つまり感染症学が他の分野と比べて専門的に突出してはいない純粋な総合診療医の先生方に限定し、総合診療という切り口から感染症をどのようにとらえ、どのように診療をされているかを言語化していただくことによって、他の総合診療医、総合診療医をめざす若手医師、研修医たちの今後の一助を築くことをめざしました。

◆ 総合診療の生の現場からのレビュー集

医師であれば誰でも同じではありますが特に総合診療医が得意とするのは、病歴と身体所見を基本として優れた臨床推論を用いて診療すること、患者さんの意向・患者さんのQOL・周囲



の状況などを十分に考慮しながら包括的にマネジメントをすること、多職種や専門科との連携をはかりチーム医療を行うこと、などがあげられます。

そこで**第1章**では総合診療医が感染症患者をみるうえで重要な病歴聴取、身体診察、基本検査、基本画像検査におけるコツを取り上げました。感染症という切り口から現場で働く総合診療医はどのようなコツを用いてアプローチしているかを学びます。**第2章**は総合診療医としてどの程度まで感染症の知識を身につけておけばよいかを紹介してもらい、日常診療の参考にしていただければと考えます。**第3章**では総合診療で遭遇しやすい状況で生じる感染症診療をまさにその現場真っ只中の先生方にレビューしていただきました。高齢者の感染症や慢性患者の感染症など総合診療医であればきつと似たような状況を経験しているはずであり、明日からの診療に参考になると考えております。**第4章**であげる疾患は本来は専門医が診療すべき感染症カテゴリーですが、患者さんは総合診療医のもとを受診してしまうのが現実です。どの程度まで総合診療医がマネジメントするのか、専門医にコンサルテーションするまでに行うこと、コンサルテーションのタイミングなどが本章で学べます。**第5章**は5つの施設規模を設定し、その代表的な施設に勤務する先生方に「自分たちは感染症診療をこうしている」という執筆をお願いしました。ほとんどの総合診療医はこの5つのどれかに近い環境で働いているため自分たちの現場と比較したりすることで大きな参考となると信じております。最後の**第6章**では感染症という切り口から、研修医教育、国際医療協力、臨床研究という分野をレビューしていただきました。そのような分野に興味のある総合診療医の参考になるのではないかと考えます。

最後にお忙しいなか執筆にご協力いただきました総合診療医の先生方、これまでわれわれに感染症診療を広めてくださった感染症専門医の先生方に深く感謝を申し上げます。今後の日本の感染症診療を総合診療医がリードしていけるようがんばります！

2016年1月

江別市立病院 総合内科／北海道総合内科医教育研究センター
濱口杉大